

タンゴ・古くて新しいブエノスアイレスの鼓動（西村秀人） 講義資料

タンゴの歴史

タンゴの誕生：1870年代前後、首都ブエノスアイレスの港町ラ・ボカ地区の場末

独立後約50年の内戦を経て、ヨーロッパ移民が急増＋初期段階の都市化

タンゴのルーツとなった音楽

ハバネラ habanera：キューバの首都ハバナの舞曲（スペインのコントラダンサが原形）

ミロンガ milonga：スペインの民謡やキューバのグアヒーラが変化

ガウチョ（牧童）のパジャータ（歌試合）に使われる形式

（注※初期のリズミックなタンゴや、タンゴのダンスホールのことともミロンガと呼ぶ）

タンゴ・アンダルス Tango andaluz：ハバネラの影響の下、スペインで劇場用歌曲として流行

→「タンゴ」の名称はここから来たという説

初期のタンゴ曲にはアルゼンチン製のタンゴ・アンダルスも多い

カンドンベ candombe：ラプラタ地域のアフリカ系住民の宗教儀式をルーツとする音楽

→どの程度影響したかは説により異なる：ダンスのステップに影響？

タンゴ歴史年表

1880年代 徐々にタンゴ曲の楽譜が出版され始め、場末の外へ広がり始める

またこの頃、ドイツから来たバンドネオンがタンゴの楽器として定着し始める

1900年代中頃 タンゴのレコード録音が始まる

1911年 レコード上で「オルケスタ・ティピカ」の名称が初登場、タンゴの楽器編成が徐々に定型化

1917年 歌のタンゴ第1号である「わが悲しみの夜」（カストリオータ曲、コントゥルシ詞）発表

1920年代半ば ハバネラ調のリズムから4拍のリズムに定着、この頃からヨーロッパでも流行

1920年代後半 第一次黄金時代（フランシスコ・カナロ、フリオ・デ・カロ、オスバルド・フレセド等）

1930年代前半 世界恐慌とトーキー映画などの影響によりタンゴ低迷

1935年 ファン・ダリエンソ楽団がスタイルを一新し、古典タンゴのレパートリーで人気を得る

1940年代 アニバル・トロイロ、カルロス・ディ・サルリ、オスバルド・プグリエーセなどの活躍、ラジオ

の普及などによって第2次黄金時代を迎える、楽団と専属歌手のコンビの人気も重要となる

1955年 ファン・ドミンゴ・ペロン失脚、アルゼンチン経済の低迷と共にタンゴもしたびに厳しい状況に

1955年 アストル・ピアソラがパリから帰国

1950年代末 キンテート・レアルなど小編成楽団が流れの中心に

1960年 アストル・ピアソラが自己のキンテートを結成

1986年 ブロードウェイ・ショー「タンゴ・アルゼンチーノ」大ヒット、タンゴダンスに国際的注目

1992年 アストル・ピアソラ死去

1997年 ギドン・クレーメル、ヨー・ヨー・マのアルバムがきっかけでピアソラ作品の再評価始まる

現代タンゴの諸局面（2000年～）

経済破綻後、伝統文化見直しの流れの中で、タンゴ黄金期の再検討を始める若手アーティスト登場
タンゴ・ダンスブーム、ピアソラ・ブームを経て、アルゼンチン・スタイルの演奏やダンスがグローバル化

(a) 1940～50年代の名流楽団のスタイルに範を取るオルケスタ

エル・アランケ、バレ・タンゴ、オルケスタ・エスクエラ・デ・タンゴ（タンゴ学校オーケストラ）

O.T. ミステリオーサ・デ・ブエノスアイレス、O.T. サン・スーシ、セステート・ミロンゲーロ
ビセ・ベルサ、ロス・タウラス、ファビオ・ハーゲル

O.T. フェルナンデス・フィエロ、O.T. インペリアル、O.T. ラ・フルカ、O.T. エル・アフロンテ

O.T. シウダー・バイゴン

(b) 古典的スタイルに範をおいた小編成楽団

プエンテ・アルシーナ四重奏団、ポエロ＝ガリヤルド＝ゴメス、ラ・カモーラ、セクシオン・ベルム

(c) ガルデル時代のレパートリーを指向するギター・アンサンブル&歌手

34 プニャラーダス、キンテート・ベントロン、ラス・ボルドーナス、バルドス・カデネーロス

クアルテート・ラ・プア、ハビエル・カルデナル・ドミンゲス、ブリアン・シャンボウレイロン

(d) 自作を主としてピアソラ以後の現代性を追及

ラミロ・ガージョ・キンテート、パブロ・マイネッティ・キンテート、ディエゴ・スキッシ

ソニア・ポセッティ、ダニエル・ガルシアとタンゴロコ

(e) ジャズとの接点

アドリアン・イアイエス、ダニエル・ピピ・ピアソラ

(f) タンゴ・エレクトロニコ

バホフォンド・タンゴ・クルブ、ゴタン・プロジェクト、ナルコタンゴ

(g) 現役のベテラン・アーティスト

レオポルド・フェデリコ、オスバルド・ピーロ、アティリオ・スタンポーネ、ネストル・マルコーニ

ロドルフォ・メデーロス、ダニエル・ビネリ、ラウル・ガレーロ、フリオ・パネ、ワルテル・リオス

フアンホ・ドミンゲス、コロール・タンゴ、ベバ・プグリエーセ、ホセ・コランジェロ

リサンドロ・アドロベル、ビクトル・ラバジェン

(h) 海外で活動するタンゴ・アーティスト

フアン・ホセ・モサリーニ（仏）、パブロ・シーグレル（米）、ルイス・ボルダ（独）

ディノ・サルーシ（独）、セステート・カンジェンゲ（蘭）、ベアタ・ソーデルベルグ（スウェーデン）

小松亮太（日）、オルケスタ・アウロラ（日）、アストロリコ（日）